

平成21年度
第1回里地里山保全・活用検討会議

討議資料

平成21年12月2日

環境省自然環境局自然環境計画課

資料1 平成20年度事業の結果について

資料2 今年度事業の全体枠組みと里地里山保全・活用
検討会議

資料3 里地里山の現状と課題について

資料4 「里地里山保全・活用行動計画(仮称)」の基本的
考え方について

資料1 平成20年度事業の結果について

目 次

- 1-1. 平成20年度里地里山保全・活用検討の全体フロー
- 1-2. 平成20年度里地里山保全・活用検討会議での議論の内容
- 1-3. 「里地里山保全・再生に向けた特徴的取組事例アンケート」
の結果
 - 1-3-1. アンケート結果とりまとめのフロー
 - 1-3-2. アンケート集計(654件)にみる取組事例の特徴
 - 1-3-3. 他地域の参考となる特徴的な取組事例の抽出と公表のフロー
 - 1-3-4. 検討の視点ごとの分析
 - 1-3-5. 他地域の参考となる特徴的な取組抽出例
- <参考> 特徴的取組事例とその特徴

1-1. 平成20年度 里地里山保全・活用検討の全体フロー

- 各地の保全・活用の取組の促進のため、アンケートを行い、参考となる特徴的な事例を選定した。
- 里地里山の現状及び行政施策等に関する情報の収集と分析を行った。

情報の収集

地域の特徴的取組の事例収集

- アンケート調査
〔 都道府県・市町村
 専門家
 関係省庁・関係団体 〕
- 既存事例の調査

行政施策に関する情報収集

- アンケート調査
- ヒアリング調査
(都道府県・市町村)
- 既存事例の調査
- 文献・資料調査

里地里山の現状分析

- 基礎データの収集
- 文献・資料調査
- 分析方法の検討

伝統的な里地里山の利用・管理の分析

- 文献・資料調査
- 専門家ヒアリング

調査・分析・整理

地域の特徴的取組の整理・分類

- アンケート調査の整理
(約600事例)
- 特徴的な取組の抽出・分類・整理

行政施策に関する整理・分析

- アンケート・ヒアリング調査等から現状と課題を整理
- 特徴的な施策や取組の事例を分析

里地里山の現状分析

- 全国的な観点から現状を把握

伝統的な里地里山の利用・管理の分析

- 歴史的推移・特徴を整理
- 伝統的な技術・仕組みを分析

成果のとりまとめ

○特徴的な取組の事例集

- ・特徴的な取組を課題の種別に対応するよう整理
- ・参考とすべき特徴的な取組の事例を紹介
(暫定的に60事例)

○保全利活用の推進方策の検討

- ・里地里山の生物多様性保全に必要な、
 - ① 価値・機能の評価方法
 - ② 新たな管理・利用の技術的手法
 - ③ 管理・利用を支える社会的な仕組みを提示。

○伝統的な里地里山の利用・管理手法の事例集

- ・里地里山の伝統的な技術・仕組みの紹介
- ・11事例の調査成果を取りまとめる

検討会議

【第1回】(平成20年11月12日)

議題

- ①重要里地里山選定の考え方
- ②自然資源の管理・利活用方策検討の方向性・手順

【アンケート実施】

平成21年1月16日～2月16日

「里地里山保全・再生に向けた特徴的な取組事例」

都道府県・市町村には併せて里地里山保全・活用施策も照会

【第2回】(平成21年2月9日)

議題

- ①アンケートの実施状況報告と分析方針
- ②里地里山をめぐる施策動向及び里地里山の現状と課題

【第3回】(平成21年3月4日)

議題

- ①アンケート結果(暫定)
- ②全国の里地里山の現状分析と保全再生の課題等
- ③里地里山の歴史的変遷

主な意見

SATOYAMAイニシアティブについて

- ・主張すべきは、人と自然がよい関係を築いてきた日本人の暮らしぶり、自然観。
- ・ここ半世紀の大失敗への反省を伝えることが大事。
- ・世界に広げる視点は、モノカルチャー対モザイク状の環境。
- ・在来農法がもつ知恵を、持続可能性、循環型土地利用、生物多様性などの観点から見直す
とよい。
- ・日本に限らず定住型の生活があった場所では、その特性をよく理解した自然環境の持続可
能な使い方が普遍的にあったという視点が、整理の枠組みとして有効。

里地里山の捉え方について

- ・日本の里山は一つではない。各地の人々が生業の中から作ってきたもの。
- ・気候や地理的条件の多様性から生みだされた里地里山の多様性を強調したい。
- ・林業地には焼畑をしていたような場所もあり、里山として検討すべきでは。
- ・里山だけ考えても保全再生は難しい。都市そのものの矛盾も一緒に考えなければいけない。

里地里山の評価について

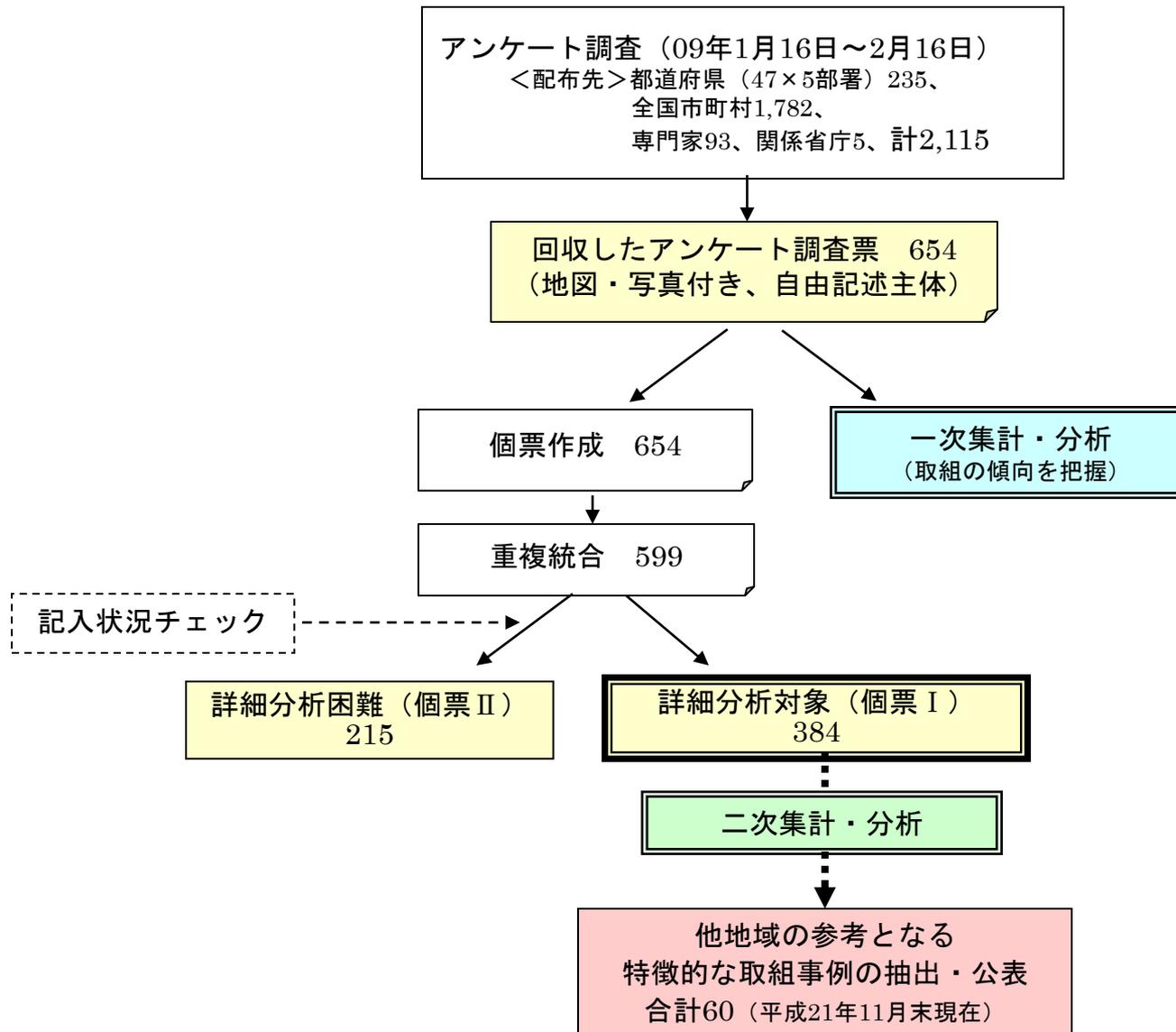
- ・希少種保護だけの観点で重要里地里山を選定するのは疑問。
- ・保全再生への国民運動のステップとして位置づけ、自然の質だけでなく活動の盛り上がり
を評価したい。
- ・他地域での取組のお手本としてのグッドプラクティスであり、「重要」というより「特徴
的」あるいは「固有」という観点での評価になる。
- ・生物多様性からの評価はやはり欠かせない。重要地域の選定抽出は、全国的視野から国が
トップダウンで行うべき。

アンケートの分析方針について

- ・優等生的なところだけでなく、多様な里地里山の姿がわかるような選び方を。
- ・できるだけユニークなその土地ならではの取組を丁寧に拾っていくべき。
- ・中山間地の大事な場所が拾えているのか心配。
- ・何を言うためか、保全再生の課題に対応させながら事例を抽出し掘り下げを行うべき。

1-3-1. アンケート結果とりまとめのフロー

回収された654の調査票を対象に一次集計し、さらに具体的な記述内容のある384の取組を対象に二次集計・分析を行い、他地域の参考になる特徴的な取組事例を抽出した。



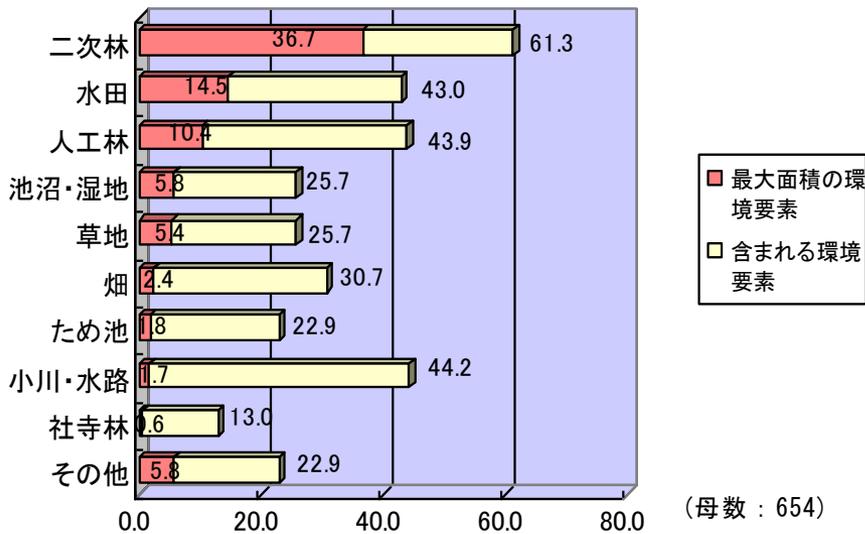
1-3. 「里地里山保全・再生に向けた特徴的取組事例アンケート」の結果

1-3-2. アンケート集計(654件)にみる取組事例の特徴(1)

■ 里地里山の状況

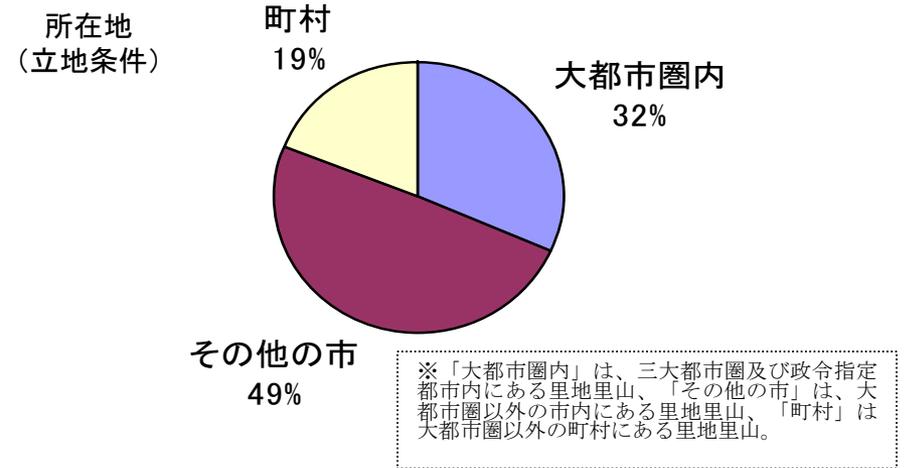
構成要素として多いのは、二次林、小川・水路、人工林、水田の順。これらが里地里山の典型的要素と考えられる。

里地里山を構成する環境要素



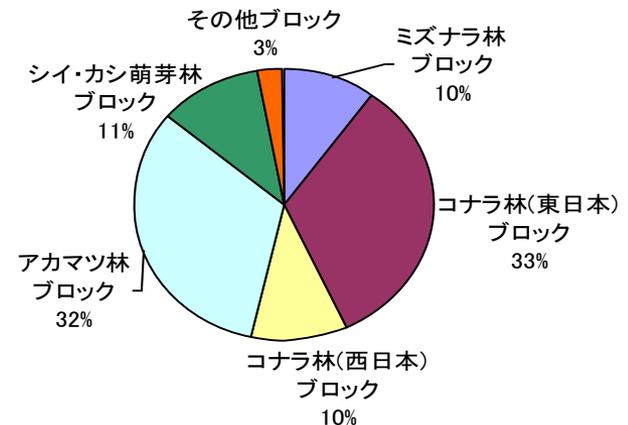
■ 取組の地域的分布

町村での取組は少ない(アンケートは全都道府県から回収)。



二次林タイプ別に見ると、コナラ林(東日本)、アカマツ林ブロックでの取組がそれぞれ1/3を占める。

二次林タイプ別割合

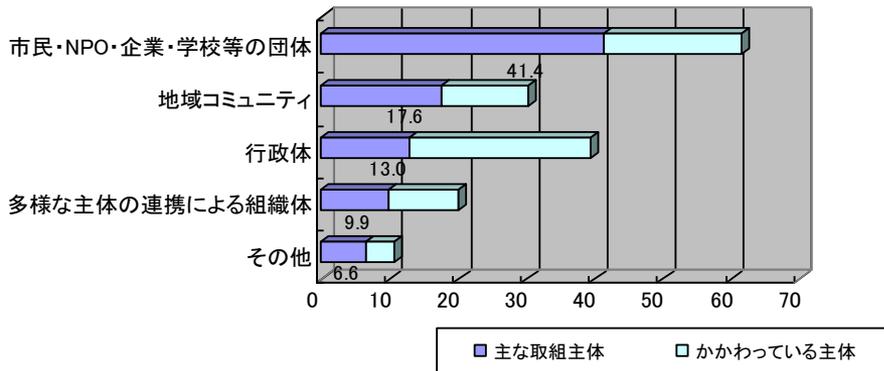


1-3. 「里地里山保全・再生に向けた特徴的取組事例アンケート」の結果

1-3-2. アンケート集計(654件)にみる取組事例の特徴(2)

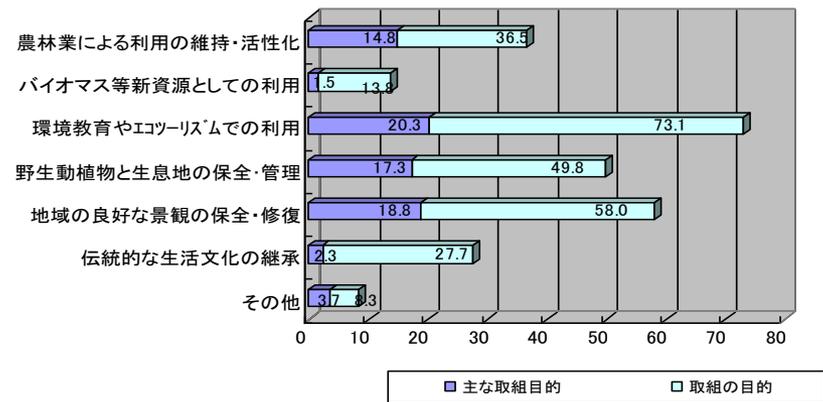
■ 保全・再生の取組の主体

市民・NPO・企業・学校等が中心になっている取組が40%強。立地条件別にみると、町村部では地域コミュニティが中心に関わるケースが3割弱になるが、大都市圏では地元参加がないケースが多い。

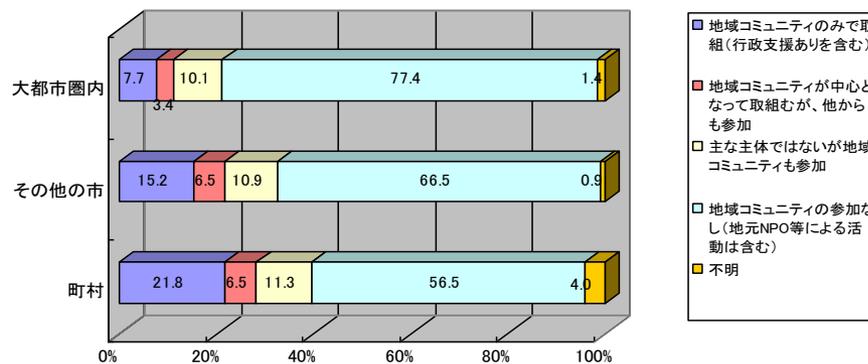


■ 取組の目的

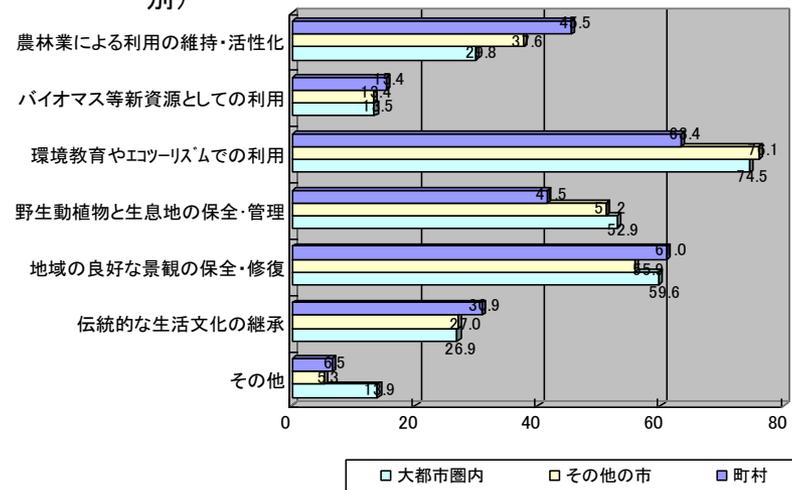
複合的な目的を持った取組が多い。立地条件別では、町村部で「農林業による利用の維持・活性化」の割合が比較的高いが、いずれの地域も環境教育や景観保全の取組のウェイトが大きい。



取組主体の地域コミュニティとの関わり (立地条件別)

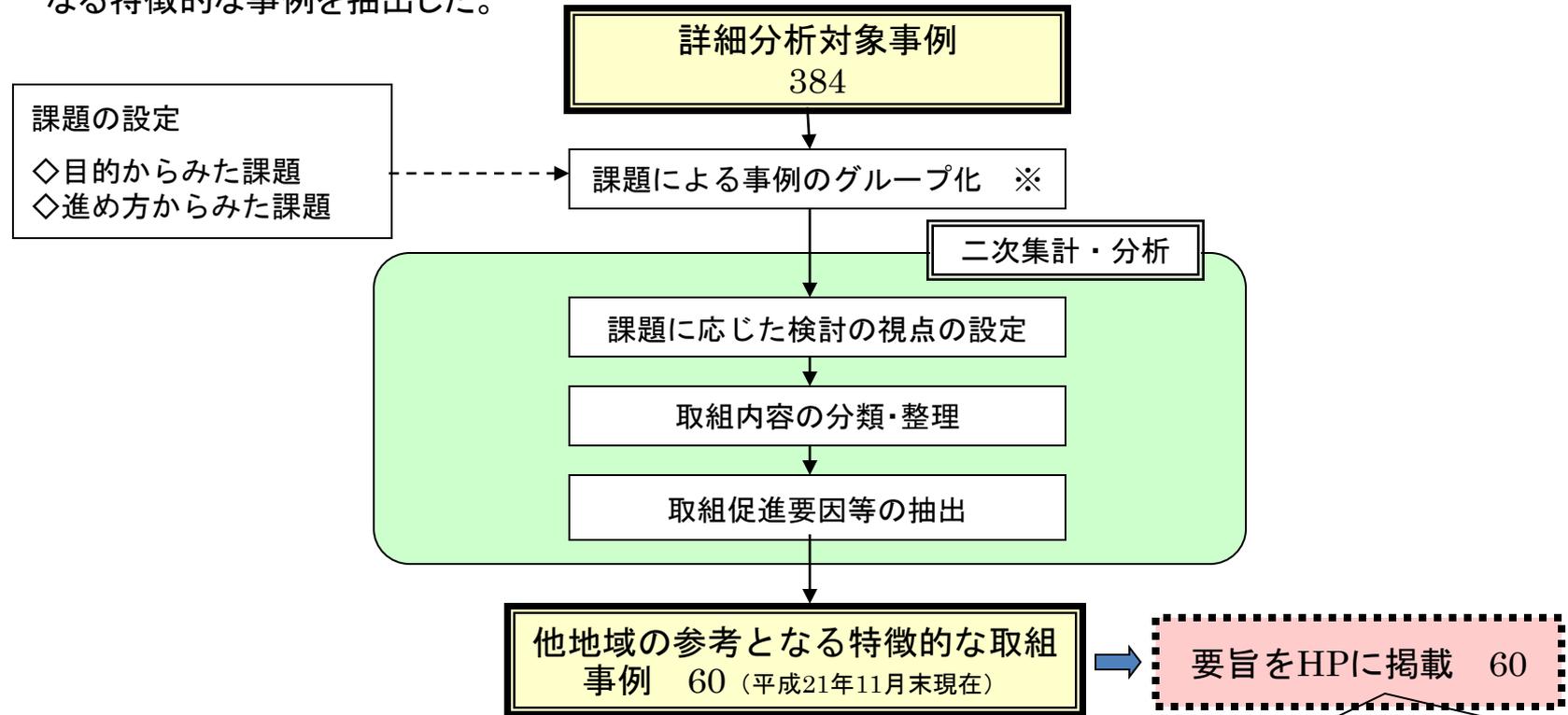


取組の目的 (立地条件別)



1-3-3. 他地域の参考となる特徴的な取組事例の抽出と公表のフロー

保全・活用の検討課題と検討の視点を設定し、事例をグループ化、各グループごとに他地域の参考となる特徴的な事例を抽出した。



http://www.env.go.jp/nature/satoyama/conf_pu/inquiry/jireisyoukai.pdf

※課題による事例のグループ化

目的からみた課題				進め方からみた課題	
①農林業を軸にした自然資源の持続的な管理・利用の推進 (97件)	②野生動植物やその生息地の保全・管理 (105件)	③良好な景観の保全、伝統的生活文化の智慧や技術の継承 (112件)	④里地里山の価値に対する社会的な認識の向上、環境教育等の場としての活用 (121件)	⑤里地里山の管理・利用への多様な主体の参加促進 (124件)	⑥里地里山の管理・利用手法の再評価と新たな手法の開発 (86件)

注：（ ）内は、当該課題に対応した取組が行われており参考となるものとして抽出された事例件数。

1-3. 「里地里山保全・再生に向けた特徴的取組事例アンケート」の結果

1-3-4. 検討の視点ごとの分析(1)

各グループごとに取組促進要因に着目し、参考となる事例を抽出した。

保全・活用の課題	検討の視点	取組促進要因の分析
<p>①農林業を軸にした自然資源の持続的な管理・利用の推進</p>	<p>●景観や生物多様性の保全等を契機にした伝統的な農の営みの活性化</p>	<p>・環境保全型農業（冬季湛水など）、耕作放棄地の再生、適正な間伐等の植林地管理、循環型利用・管理の再開などの取組が見られる。集落全体での取組が不可欠であり、地元住民や土地所有者の参加意欲喚起、体験・交流の促進等がカギになっている。</p>
	<p>●里地里山イメージを活用した農林産品の高付加価値化と販売力の強化</p>	<p>・産品の地域ブランド化（認証制度導入など）や加工品づくりが行われ、オーナー制度、地産地消の仕組みづくりなどを通じた販売機会の拡大、流通・販売ルートの開拓が進められている。シンボルとなる生きものや、体験・交流空間の提供等により、地域イメージの強化や魅力発信を行うことがポイントとなっている。</p>
	<p>●間伐材やチップなどの活用による新たな資源価値の発掘</p>	<p>・里地里山の自然資源を活用した新たな製品化や、利用技術の開発（発電用熱源化、ペレット化など）に際し、経済性確保のための技術的工夫や需要創出、製品市場の開拓（利用グループ組織化など）が重要になっている。</p>
<p>②野生動植物やその生息地の保全・管理</p>	<p>●生物多様性に富み、人々に豊かと感じられる里地里山環境の保全、創出</p>	<p>・生息地保全に必要な維持管理の継続（枝打ち・下草刈り、水路浚渫など）、営農方法の転換（減農薬、栽培種の転換など）、外来種駆除、野生動植物生息調査などが行われている。地域住民の生きものへの関心や価値認識の向上への取組のほか、生物多様性保全のための総合的な環境管理方針の設定、モニタリングに基づく順応的な管理に留意した取組などがポイントになっている。</p>
<p>③良好な景観の保全、伝統的生活文化の智恵や技術の継承</p>	<p>●里地里山の景観や生活文化の再評価と地域資源としての活用</p>	<p>・荒廃田畑での作物栽培ややぶの手入れなど維持管理活動の継続・復活、維持管理や資源利用を通じた伝統的な知恵や管理技術の継承（石積み塾、萱葺き民家再生など）、そのための人材確保・養成、ふれあいや体験・交流の場としての里山公園整備などが行なわれている。都市との交流促進・情報発信など資源活用の成果を確認したり、伝統行事を継続すること等により幅広い住民の関心や意識向上を図ることがカギになっている。</p>

1-3. 「里地里山保全・再生に向けた特徴的取組事例アンケート」の結果

1-3-4. 検討の視点ごとの分析(2)

保全・活用の課題	検討の視点	取組促進要因の分析
④里地里山の価値に対する社会的な認識の向上、環境教育等の場としての活用	●里地里山に対する社会的認識の向上	・自然観察や体験活動を通じた認識の向上、総合学習の活用などによる環境教育・学習、広報やワークショップ等による普及啓発などが行われている。地域の自然や歴史・文化を知る手がかりの発掘・提示、わかりやすいテーマ設定や参加のきっかけづくりがポイントになっている。
	●環境学習等のプログラムの開発・運営	・自然観察会や生きもの調査、自然体験・環境保全活動の運営、農林漁業体験活動の運営、エコツアーリズム・グリーンツアーリズムの場への活用など幅広い取組が見られる。わかりやすいテーマ設定や参加のきっかけづくりが取組を拡大する要因になっている。
	●フィールドを確保し、プログラムを運営する体制の整備	・里山公園開設と住民・活動団体による管理運営、地元集落・NPO等の連携による里山自然学校の運営、農村生活体験プランの提供などが行われている。集落ぐるみの取組が重要であり、地元案内人や技術指導員の確保、運営のためのコーディネーターの確保・育成がカギになっている。
⑤里地里山の管理・利用への多様な主体の参加促進	●地元住民による主体的取組を促進する仕組みや体制づくり	・町内会などの地域組織や小中学校を通じた保全や整備への参加・協力のネットワーク化、地元民間企業による里地里山の資源を活用した商品開発などが行われている。地域ぐるみの取組とするための合意づくり、そのための地元の発意や地元リーダーによる活動の重視、Uターン・Iターン促進による新たな担い手の確保などがポイントになっている。
	●地元と外部の協力・連携による取組を促進する仕組みや体制づくり	・地域外の主体（活動団体・企業・大学等）と地元地権者等のニーズをマッチさせる仕組みづくりや協力・連携促進のための協議会結成、コーディネート組織の育成などが行われている。協定等締結に行政が関与することによる連携・協働の安定と継続性の確保、行政による側面的支援（技術、資金、人材情報提供など）がポイントとなっている。
⑥里地里山の管理・利用手法の再評価と新たな手法の開発	●伝統的な里山管理手法の再評価と技術の継承	・地域の環境と適合し生物多様性や良好な景観をもたらしている管理・利用手法の継承や技術継承のための後継者の育成などが行われている。複合的な資源利用の組合せ、生活文化との一体化や、生態系保全と営農の両立を目指すなど持続可能性を実現させることがカギになっている。
	●現代の里地里山に適用可能な持続可能な資源管理手法の確立	・野生動植物生息に適した環境を維持・再生する順応的な管理技術・手法や、省力化・効率化を通じて事業化を可能にする資源管理の技術・手法の確立（製炭、堆肥化、獣害対策など）の試みが行われている。樹林地、耕作地、水辺など異なる土地利用要素を混在させることへの配慮や複合的なメリットを明らかにすることなどが目立っている。

1-3-5. 他地域の参考となる特徴的な取組抽出例(1)

豊岡盆地・円山川（兵庫県豊岡市）

（課題①）

○コウノトリ米の販売など希少野生生物の保護と地域経済を結びつけた取組

大型の鳥・コウノトリの野生復帰に取組む豊岡市では、生息に必要となる餌生物を増やすため、生きものを育てる稲作技術「コウノトリ育む農法」の拡大や、水田と水路をつなぐ「魚道」の設置、ビオトープ水田の創出などの農業施策を関係機関等連携のもとで進めている。また、環境行動と経済活動の共鳴をめざす「豊岡市環境経済戦略」を策定し、生物多様性を守る健全な里山の保全や、間伐と伐採木の有効利用といった林業施策についても、経済性を考慮しながら展開している。

写真上：コウノトリと人が共に暮らしていた昭和30年代の様子

写真下：人工飼育と放鳥によって、かつての風景が戻りつつある

（提供：富士工芸社（有））



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物		
都市 周辺	連携 組織	農林業 等	動植物		環境 全体

白山・坂口地区（福井県越前市）

（課題②）

○希少生物が生息する里地里山の価値が再認識され、都市との交流など活動の幅が拡大

里山と浅いため池が点在し、アベサンショウウオなど30種を超える環境省レッドリスト掲載種を始め多様な動植物が生息している。地元農家や保護活動団体、専門家、行政機関が「水辺と生き物を守る農家と市民の会」を結成し、連携して環境保全型農業、農産物の白山ブランドづくり、都市農村交流事業を進めるとともに、子どもたちを対象としたエコキャンプ、自然観察会などの活動や、ビオトープ整備、外来種駆除などの活動を行っている。ふるさと学習など、地区住民の郷土愛と信頼の輪を深める活動も盛んである。

写真上：白山地区の集落と里山

写真下：住民による生きもの調査



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	環境教育等	
中山間 地	連携 組織	農林業 等	動植物	環境教育等	環境 全体

1-3-5. 他地域の参考となる特徴的な取組抽出例(2)

上世屋地区（京都府宮津市）

（課題③）

○伝統的技術の伝承と里地里山保全再生を結びつけ、地域活性化につなげる

里山風景の保全、地域の活性化を目的に、NPO、活動団体、大学等多様な主体が地域住民と連携しながら、棚田の再生、天然の藤づるを材料にした藤布を織る技術の継承、世屋（せや）周辺の里山の動植物の保全、世屋に伝わる衣・食・住の文化を伝える人材の育成等を目指し、各種の講座やイベントを実施している。こうした里山文化を伝える活動の更なる展開を図るため、当地区の伝統的な建築様式であるササ葺き家屋の復元にNPOや活動団体、大学、地域住民がコンソーシアムの形態で取り組み、4年半の歳月をかけ活動拠点を整備した。

写真上：棚田での田植え風景（「合力の会」による）

写真下：ブナ林散策（「宮津市エコツーリズム推進協議会」による）

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		景観・文化	環境教育等		
中山間地	NPO企業等	景観・文化	環境教育等		環境全体



春蘭の里（石川県能登町）

（課題④）

○里山環境を活かしたグリーンツーリズムをはじめ多面的取組を地域ぐるみで展開

山菜やきのこなど恵み豊かな山、川、農地と生活の営みに育まれた二次的自然が凝縮されている地域で、里山の象徴と位置づけているシュンランが自生している。地域の有志で結成された「春蘭（しゅんらん）の里実行委員会」が中心となってグリーンツーリズムを推進し、都市部の小学校の体験旅行の受け入れや、農家ごとの農村生活体験プランを提供している。里山を適切に管理することでキノコ山として保全し、それらのキノコや山菜、伝統文化など里山の地域資源を活用した地域おこしに結び付けている。

写真上：黒瓦と漆喰が美しい農村住宅と水田。農家民宿も人気がある

写真下：集落を流れる川で遊ぶ子どもたち

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	景観・文化	環境教育等	
中山間地	連携組織	農林業等	景観・文化	環境教育等	環境全体



1-3-5. 他地域の参考となる特徴的な取組抽出例(3)

秦野地域の里地里山（神奈川県秦野市）

（課題⑤）

○連絡協議会の下、行政を中心に幅広い関係者が連携し役割分担しながら取組を進める

地元住民による里山の枝打ち、間伐、下草刈り、水田・畑の耕作などが行われているが、ここをNPOなどが環境教育や自然体験、農林業体験などの場として活用し、生き物さがし、ビオトープ整備、炭焼き、田植え・稲刈り、サツマイモや落花生の作付け・収穫などを実施する。里山文化継承のため、地元学のワークショップ、地元料理レシピづくり、子どもの昔遊び体験なども行っている。市では、農道や里山散策路、里山案内看板などを整備するとともに、一部を「生き物の里」として指定・管理することにより、希少な動植物の生息環境を保全している。



写真上：名古屋地区の棚田景観

写真下：里山体験教室で講師から間伐方法の指導を受ける

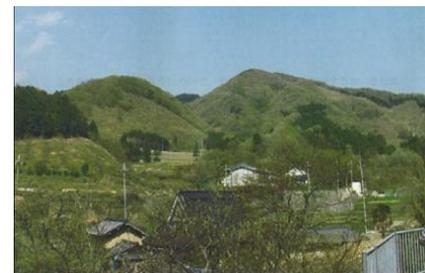
地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	景観・文化	環境教育等	
都市周辺	NPO企業等	動植物	景観・文化	環境教育等	環境全体

北摂・黒川の里山（兵庫県川西市）

（課題⑥）

○伝統技術による特産の菊炭生産が継続され、特有の景観と生息環境が維持されている

菊炭生産者や森林ボランティア団体等が現在も台場クヌギ（歴史性の高い特殊な仕立て方を施したクヌギ）の輪伐により薪炭材を採集している。このため、1～10年生の林がモザイク状に配置されることで、多様な生息生育空間が生まれている。専門家が生物多様性や里山の歴史性などに関する知識を提供し里山の学習と保全の方針について指導するとともに、一庫炭生産者の指導により市民活動団体等が里山管理と炭焼きの技術を継承している。



写真上：さまざまな樹齢の林がモザイク状に分布するクヌギ林（提供：人と自然の博物館）

写真下：台場クヌギと炭焼きがまの跡（提供：人と自然の博物館）

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	景観・文化	
都市周辺	NPO企業等	農林業等	動植物 <td>景観・文化</td> <td>樹林地</td>	景観・文化	樹林地

<参考>特徴的取組事例とその特徴(1)

保全再生の検討課題	検討の視点	地区名	整理番号	事例の特徴（特に参考となると考えられる点）
①農林業を軸にした資源の持続的な管理・利用の推進	●景観や生物多様性の保全等を契機にした伝統的な農の営みの活性化	金蔵地区(石川県輪島市)	1	集落全体で棚田や歴史文化維持のためのNPO法人を設立、棚田営農の継続、五穀を中心とした特産品開発など総合的な取組を進めている。
		石部の棚田(静岡県松崎町)	2	県の棚田10選選定を機に、地元農業者がボランティアの協力も得て棚田を復元、企業、大学の協力も得ながら管理を行っている。商工会と連携し黒米パンなどの特産品開発も進めている。
		江里山の棚田(佐賀県小城市)	3	農村景観100選選定を機に、集落全体で水条件などを活かした減農薬の米づくりに取り組んでおり、棚田景観と伝統食の継承をテーマに都市との交流も進めている。
	●里地里山イメージを活用した農林産品の高付加価値化と販売力強化	豊岡盆地・円山川(兵庫県豊岡市)	4	市がコウノトリをシンボルとした「豊岡市環境経済戦略」を策定、コウノトリ米の販売など希少野生生物の保護と地域経済を結びつけた取組を進めている。
		北庄の棚田(岡山県久米南町)	5	農業者が棚田天然米生産組合を組織、伝統的な水利技術と棚田景観を結びつけた地域ブランド米の少量限定販売により付加価値を高めている。
	●間伐材やチップなどの活用による新たな資源価値の発掘	薩摩川内地域の竹林(鹿児島県薩摩川内市)	6	竹資源を利用した様々な製品開発とそれに基づく産業連携の成立により、里山竹林の持続的な利用と管理が行われている。
②野生動植物やその生息地の保全・管理	●生物多様性に富み、人々に豊かと感じられる里地里山環境の保全、創出	ハサンベツ里山(北海道栗山町)	7	町教育委員会中心に、住民参加で離農跡地にホタル・トンボ水路整備、雑木林復元、ソバ栽培などの豊かな生態系回復を目指した取組が進められており、総合学習の場としても活用されている。
		久保川イーハートフ(岩手県一関市)	8	溜池、棚田、小河川など多様な環境で伝統的な里山管理が継続され、在来の生物相がよく残っている。地権者を軸に地元住民、研究機関など多様な主体が協力して外来種駆除や二次林管理などの取組を展開している。
		穴塚大池周辺(茨城県土浦市)	9	生物多様性の維持保全を軸に、調査、外来生物駆除、里山整備、棚田米づくり、環境学習などの取組が、NPO、住民、研究者、行政などにより総合的に展開されている。
		小佐渡東部地区(新潟県佐渡市)	10	トキ野生復帰事業を契機に人とトキの共生への理解が広がり、棚田再生や冬季湛水など生息環境の復元やトキ米や修学旅行受入などの活用が地域ぐるみで進められている。
		白山・坂口地区(福井県越前市)	11	アベサンショウウオ等希少生物が生息する里地里山の価値が地域で再認識され、生きもの調査や農産物ブランド化、都市との交流など活動の幅が広がっている。
		河辺いきもの森(滋賀県東近江市)	12	市とNPOが協働してかつての河畔林の保全管理を行い、環境学習の場として活用している。特定の動植物の保護ではなく普通の里山づくりを目指している。
		いなみの台地(兵庫県加古川市ほか)	13	ため池等の自然や文化景観を地域の遺産として引き継ぐため、水辺の自然観察会などで住民の認識向上を図るとともに、池干し、外来種除去などの取組を広域的なネットワークで進めている。
		世羅台地周辺(広島県三原市)	14	休耕地に定着した希少種ヒヨウモンモドキを保全するため、地権者との覚書により保護区を設置し、地元住民も参加して草刈りや水路の復元を行っている。保護区は移動分散を考慮したネットワークで配置している。
		伊尾・小谷地区(広島県世羅町)	15	絶滅のおそれのあるダルマガエルの保護移植をきっかけに、希少種の生息環境が地域の財産として認識され、ダルマガエルと共存する農業やギフチョウの生息環境保全が地元主導で行われている。
		舟志の森(長崎県対馬市)	16	ツシヤママネコ生息地で、人と自然の共生を進めるため地権者企業、活動団体、地元住民、行政が連携・協働して管理計画を策定、間伐等の人工林管理と広葉樹林の育成、区民参加の生息調査、休耕地の湿地保全などの取組を進めている。
③良好な景観の保全、伝統的生活文化の智慧や技術の継承	●里地里山の景観や生活文化の再評価と地域資源としての活用	富士権現山山麓(茨城県桜川市)	17	古い歴史を持つ鎮守の森を守るため、地元のボランティア団体が周辺の里地里山の間伐、枝打ちなどに取り組んでおり、伝統行事の素材や総合学習の場としても活用されている。
		谷田・武西の谷津(千葉県白井市、印西市)	18	ニュータウン入口に残された特有の草地や谷戸を、地域の景観や文化を代表し自然との共生を示すモデル地区と位置づけ、市民主導による保全整備を進めている。
		越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)	19	里地里山をアート制作イベントの場とすることで、新しい形で里地里山の魅力を発信し、地域内外で里山環境の再認識につながっている。
		遠州南部地区(静岡県掛川市、袋井市、磐田市)	20	稲田の広がる農村景観や農村文化の継承を目指し、歴史、生態系、農業、伝統料理など地域の専門家のNPOが情報発信や都市・農村交流などに取り組んでいる。
		上世屋地区(京都府宮津市)	21	藤織り技術の伝承や笹葺き家再生と里地里山保全再生を結びつけ、人材の確保・育成や地域活性化につなげている。
		稲淵棚田(奈良県明日香村)	22	棚田を貴重な文化遺産として認識した地元農家が棚田オーナー制度を発足させ、農業体験や交流イベントを通じて新たな文化の発信を目指している。

<参考>特徴的取組事例とその特徴(2)

保全再生の検討課題	検討の視点	地区名	整理番号	事例の特徴（特に参考となると考えられる点）	
④里地里山の価値に対する社会的な認識の向上、環境教育等の場としての活用	●里地里山の価値に対する地域の認識の向上	にいつ丘陵(新潟県新潟市)	23	市が「里山保全活用基本計画」を策定、市有林の手入れや里山ハイキング等を市民参加で行うことにより、民有林所有者にも意識向上と里山再生の取組促進を図っている。	
		朝倉南地区(愛媛県今治市)	24	公民館が中心になって、地域住民、NPO等がため池や湿地の自然環境調査や観察会、保全活動、また歴史文化・環境学習を併せて行い、子供たちの環境問題への理解を深めている。	
	●環境学習等のプログラムの開発・運営	トヨタの森(愛知県豊田市)	25	鬱蔽した林になっていた社有林の手入れ、整備を、モニタリングとフィードバックを行いながら進めており、地域の自然体験学習の場としても活用されている。	
		漆の里山(鹿児島県蒲生町)	26	環境省モニタリングサイト1000の里山サイトであり、地域のNPOが軸になって環境調査や里山自然学校、環境学習など多様なプログラムを進めている。	
	●フィールドを確保し、プログラムを運営する体制の整備	桜宮自然公園(千葉県多古町)	27	産廃処理場計画を契機に、地権者が里山の価値を再認識、荒廃した谷津田を再生する手法として自然公園が整備された。身近なふれあいの場として活用しつつ、会員組織により維持管理を継続している。	
		春蘭の里(石川県能登町)	28	異業種につく地元有志の実行委員会が中心になって、里山環境を活かした環境学習や里山体験、グリーンツーリズム、特産品開発など多面的な取組が地域ぐるみで展開されている。	
		立神峡・里地公園(熊本県水川町)	29	町が整備した里地公園を拠点として、NPOの参加による里山管理や子供たちが暮らしの知恵を体験する学習プログラムを展開する体制が構築されている。	
	⑤里地里山の管理・利用への多様な主体の参加促進	●地元住民による主体的取組を促進する仕組みや体制づくり	細越ホテルの里(青森県青森市)	30	集落の全戸が参加して「ホテルの里の会」を結成し、北限のホテルの生息環境保全を軸に休耕田の復元など地道な取組を継続している。
			鹿島台シナイモツゴの郷(宮城県大崎市)	31	地域の農業者が本地域を基準産地とする希少淡水魚シナイモツゴをシンボルにした環境保全米の栽培と販売を展開。同時に保護増殖や環境学習の取組もすすめている。
東山の森(愛知県名古屋)			32	大都市内に残された森を市民の共有財産と位置付け、市民団体と市が共同して森づくり連絡会を設立。パートナーシップにより雑木林の手入れ、環境学習や生物調査などを進めている。	
四万十川流域(高知県四万十町)			33	地元民間企業が内外の人や組織を結び付け、地域の生活・環境を支えてきた一次産業の再生を目指して資源発掘や商品開発を進める役割を担っている。	
●地元と外部の協力・連携による取組を促進する仕組みや体制づくり		突哨山(北海道旭川市)	34	カタクリ群落保護運動を契機に公有地化された里山を対象に、指定管理者制度を活用して行政と市民団体が連携して運営する体制がつけられている。	
		上ノ原入会の森(群馬県みなみ町)	35	かつて入会地だった営場の再生をめざし、下流の市民団体が地元住民の指導を受けながら火入れや萱刈りを行う「上下流連携」が進められており、「現代版入会」の仕組みづくりが模索されている。	
		船橋市北部地区(千葉県船橋市)	36	NPOが森林所有者と契約し施業計画を立てて造林補助事業により森林整備を行う、所有と管理を分離した仕組みが稼働している。	
		横沢入里山保全地域(東京都あきる野市)	37	行政から委託を受けた地域住民主体のNPOが、里山保全地域の稲作・管理を行っている。また、企業、NPO、行政の三者が協定を結んで、環境学習や企業CSRの場として広く活用する仕組みが作られている。	
		藤野町佐野川の里山(神奈川県相模原市)	38	地元活動団体が、旅行社や大学等との連携体制を作りながら、都心から近い立地を活かし間伐材を活用した工芸品の開発・販売、体験観光などに取り組んでいる。	
		秦野地域の里地里山(神奈川県秦野市)	39	行政を中心に、地元農家、活動団体等幅広い関係者が連携し役割分担しながら、里山整備、荒廃農地の復元、体験学習、ボランティア研修等に取り組む連絡協議会が組織されている。ボランティアと地権者をつなぐ仕組みもできている。	
		ライオン山梨の森(山梨県山梨市)	40	企業、森林組合、行政が協定を締結、企業資金や社員のボランティア参加により植林、間伐・枝打ちなどの活動が実施され、現地産材からできた紙を企業が購入するなどの連携も行われている。また、本社所在地の区民による森林整備体験も実施されている。	
		朽木針畑の里山(滋賀県高島市)	41	山村集落の活性化に向け行政が音頭を取り、地元住民、企業、NPOによってそれぞれの特徴を活かした取組が行われている。	
		西山地区(京都府長岡京市)	42	地権者、企業、大学、行政等多様な関係者が協議会を通じて連携し、放置竹林の再生や研究、啓発活動等を行っている。京都府モデルフォレスト運動の取組地として、企業の社員・家族が積極的に参加している。	
		毛原の棚田(京都府福知山市)	43	地元住民と行政が連携して棚田体験ツアーやオーナー制度など都市との交流活動を継続し、保全再生の担い手の定住促進を図っている。モデルフォレスト運動による企業参加の里山整備も実現している。	
綾部市域の里山(京都府綾部市)	44	行政の支援の下、都市・農村の交流や定住促進をめざすNPO法人が設立され、ボランティアと地元の協働による里山整備、農林業体験や農家民泊、空き家紹介など多様なプログラムを展開している。			

<参考>特徴的取組事例とその特徴(3)

保全再生の検討課題	検討の視点	地区名	整理番号	事例の特徴（特に参考となると考えられる点）
⑤里地里山の管理・利用への多様な主体の参加促進(続き)	●地元と外部の協力・連携による取組を促進する仕組みや体制づくり(続き)	神於山地区(大阪府岸和田市)	45	地域のシンボルとなっている里山の荒廃防止のため、市民、活動団体、企業、行政が協議会を結成し、エリアを分担して取組を進めている。
		山野草の里(奈良県桜井市)	46	NPOが里山の保全整備に取り組み、行政が森林所有者との調整や費用・機材の助成などで支援する連携体制が構築されており、地元農家や関係団体とともに酒米の耕作再開など幅広い取組が展開されている。
		西条地区(広島県東広島市)	47	地元酒造協会の基金運用により、市民や大学が参加する山と水のグラウンドワークが展開され、水源の森が再生されつつある。
		粉所の里山(香川県綾川町)	48	県事業の里山オーナー制度への参加をきっかけに、借主たちが独自に地域や所有者の協力を得て里山整備の取組を拡大している。
		阿蘇草原地域(熊本県阿蘇市)	49	地域の人々の生業とともに維持されてきた広大な草原の保全・再生のため、自然再生事業の枠組みを活用して協議会が結成され、ボランティアの参加による野焼きなど幅広い取組が行われている。
⑥里地里山の管理・利用手法の再評価と新たな手法の開発	●伝統的な里山管理手法の再評価と技術の継承	荒川高原牧場(岩手県遠野市)	50	北上山地特有の自然条件下で地元組合によって維持されてきた馬放牧地の利用・管理を、市の公社が引き継ぎ、草地景観や湿原を保全しつつ畜産振興を図っている。
		函師小野路歴史環境保全地域と隣接地(東京都町田市)	51	地元農業者による地域伝来の農法が行政の委託により継続され、里地里山環境の再生と市民の環境教育、意識啓発につながっている。
		山熊田地区(新潟県村上市)	52	焼畑に赤カブ・雑穀を栽培し、跡地にスギを植える林業が維持され、しな織り等、里山資源を利用する伝統的な生活文化を活用した特産品の製造・販売、ツアーなどの取組が地域活性化をもたらしている。
		こもろミズオオバコビオトープ(長野県小諸市)	53	希少な沈水植物を保護移植するため、地域特有の地形の休耕田をビオトープとして復元し、無農薬、手作業の伝統農法で米作りを行っている。貴重種の保存に成功し、里地の恵みを体験できる場ともなっている。
		高安地区(大阪府八尾市)	54	ため池を改修し、池干しなど伝統的水管理手法を再現することにより、希少淡水魚類ニッポンバラタナゴの再生に成功している。また、地域全体の水循環の再生のため周辺の森林整備も行っている。
		弘川寺歴史と文化の森(大阪府河南町)	55	生業として行われていた炭焼きを農家の指導を受けた市民団体が復活させ、炭・薪の生産・販売収入も原資にしなが、環境教育などの取組を進めている。里山保全と地域文化の継承につながっている。
		北摂・黒川の里山(兵庫県川西市)	56	古くから炭づくりが盛んな地域で、現在も農家や市民団体によって伝統技術による特産の菊炭生産が継続されている。台場くぬぎの輪伐によりモザイク状の里山林が形成され、特有の景観と生物生息環境が維持されている。
		秋吉台地域(山口県美祢市)	57	長年の放牧地利用とドリーネ耕作で形成された草地と畑地の景観を、行政など地域の関係主体が山焼きや体験耕作で継承する取組を行っており、エコツーリズム推進にも役立っている。
		●現代の里地里山に適用可能な持続可能な資源管理手法の確立	生出地区(岩手県陸前高田市)	58
	浦高百年の森(埼玉県寄居町)		59	高校同窓会が放置林などを借り受け、100年計画で森林再生に取り組んでいる。カシ極相林、里山林、スギ、ヒノキ林など多様な森の形成を目指しており、変化を記録し学術的評価を行うこととしている。
安堂地区(滋賀県近江八幡市)	60		イノシシ被害をきっかけに、地域が協力して耕作放棄田や里山を伐採し、緩衝地帯に黒毛和牛を放牧する対策に取り組んでおり、鳥獣害防止、景観保全、畜産振興、バイオマス利用など多面的機能を発揮し、里山管理への関心と参加が広がっている。	